

## 平成21年11月21日(土)

### 国道159号津幡バイパス(内日角～能瀬IC)全線4車線化供用開始!

国道159号津幡バイパスは、地域高規格道路「月浦白尾IC連絡道路」の一部であり、暫定2車線供用となっていたかほく市内日角～河北郡津幡町能瀬までの約2.1km間について、下記のとおり4車線化の供用を開始しますのでお知らせします。

なお、金沢方面から能登有料道路への分岐方法が、別紙のとおり変更となりますので、併せてお知らせします。

#### ◆供用開始日◆

平成21年11月21日(土) 午前7時

※作業を完了した箇所から随時開放しますので、通行される際は交通誘導員の指示に従って下さい。

#### ◆今回4車線化供用区間◆

かほく市内日角～河北郡津幡町能瀬 延長L=2.1km

(側道及び歩道等の整備は、平成22年3月に完成予定です。)

#### ◆整備効果◆

暫定2車線区間(内日角～能瀬IC)で発生していた渋滞や旅行速度の向上が期待されます。

#### ◆能登有料道路への分岐方法の変更◆

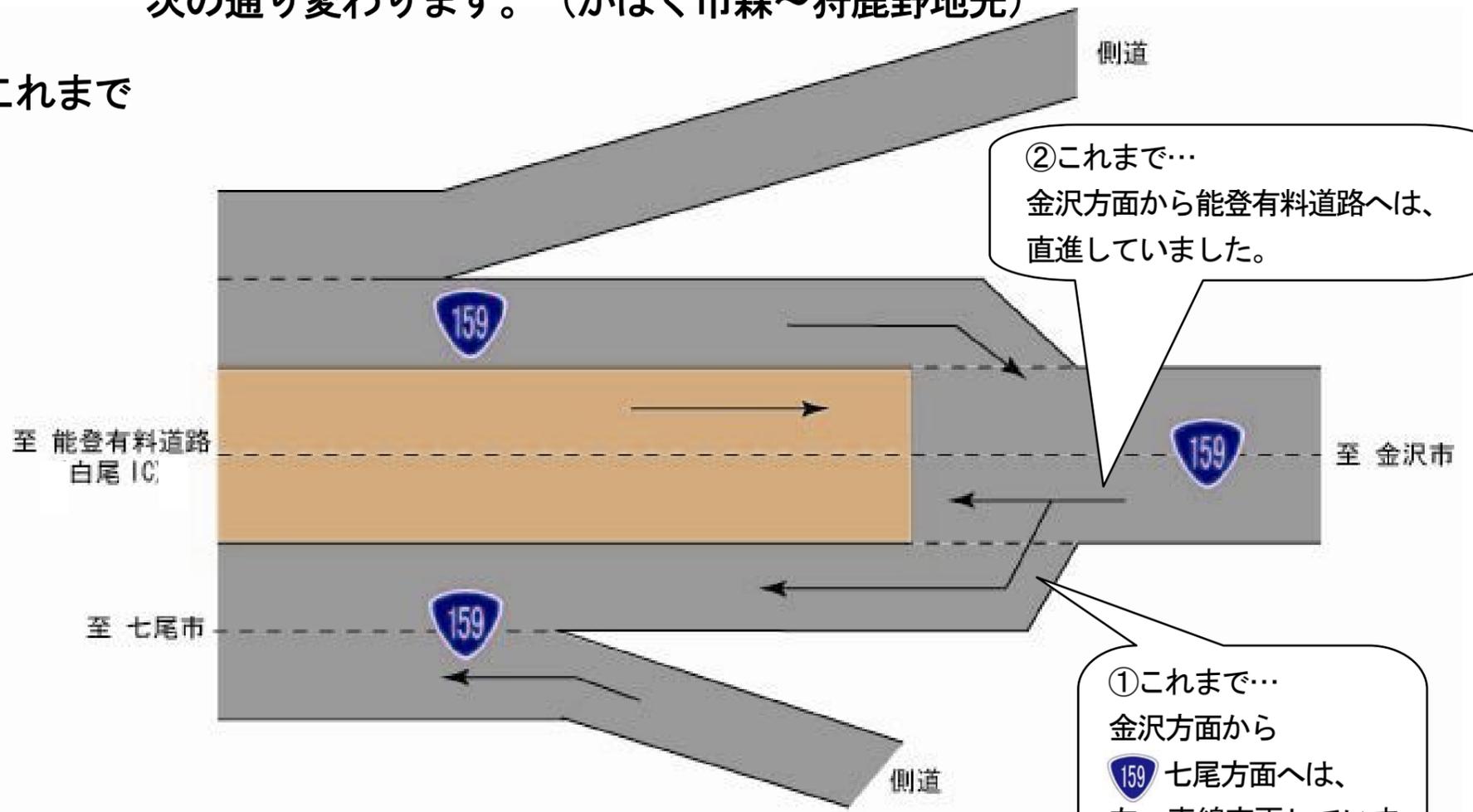
- ①金沢方面から七尾方面への車線が2車線になります。
- ②金沢方面から能登有料道路への分岐方法が変更になります。



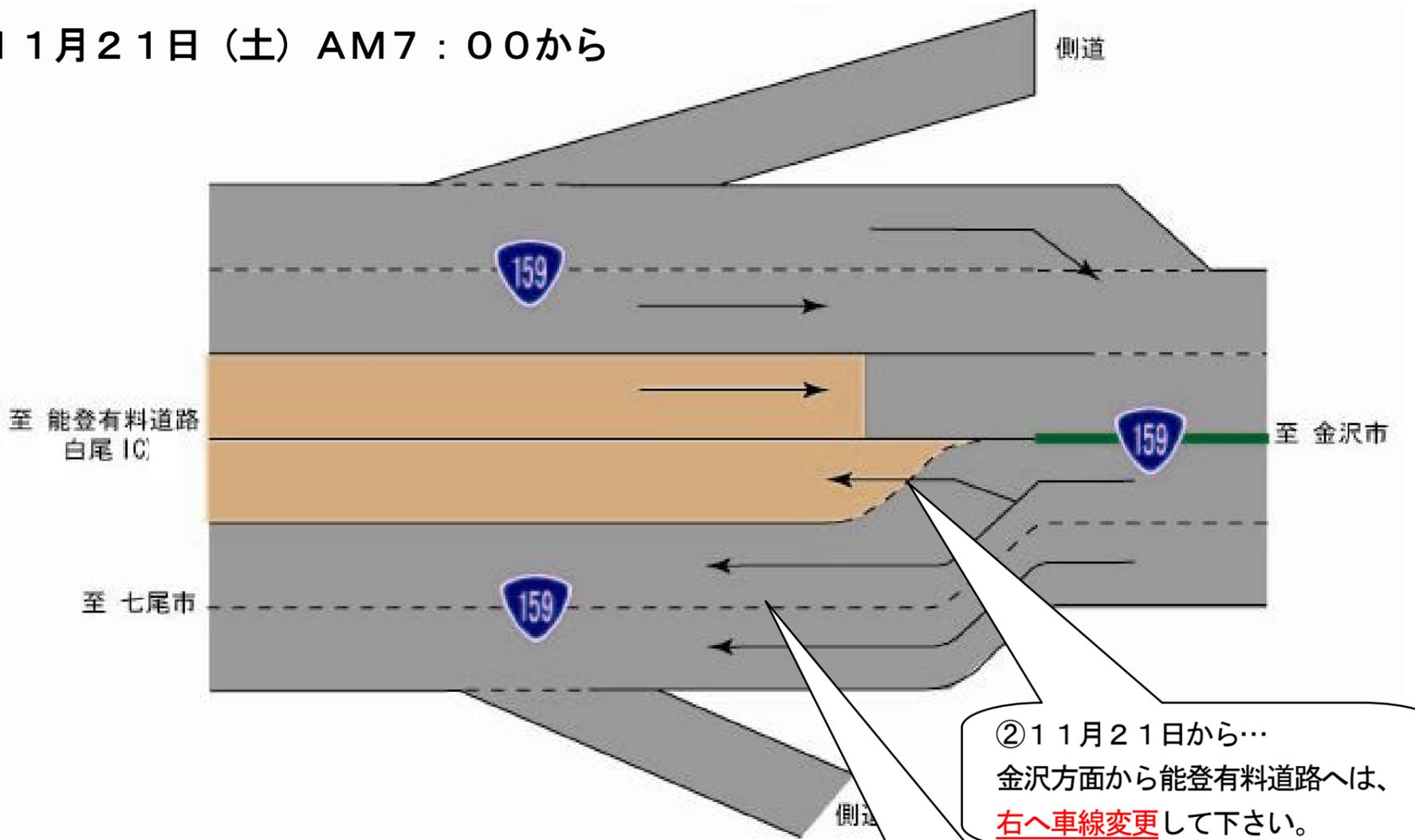
問い合わせ先：国土交通省 北陸地方整備局 金沢河川国道事務所 調査第二課長 吉田 英治  
 TEL：076-264-9912 (調査第二課ダイヤルイン) 内線451

国道 159 号 津幡バイパス 4 車線化に伴う能登有料道路への分岐方法が、次の通り変わります。(かほく市森～狩鹿野地先)

★これまで



★11月21日(土) AM7:00から



①11月21日から…  
金沢方面から  
159 七尾方面へは、  
そのまま直進して下さい。

津幡バイパスの全線開通により期待される効果

●広域交流幹線軸の強化

津幡バイパスは、地域高規格道路「月浦白尾IC連絡道路」として、能登地域と金沢都市圏との連携強化を目的とした広域交流幹線軸に位置づけられており、今回の供用により能登有料道路及び北陸自動車道へのアクセスが向上され、地域の発展に寄与することが期待されます。

●渋滞の緩和

津幡バイパスの整備に合わせて、周辺では住宅地の整備や大型商業施設の立地が進み、交通量が増加したことから舟橋JCT周辺や狩鹿野IC周辺では旅行速度の低下や交通渋滞が発生しやすい状況となっていました。

今年5月の能瀬IC～舟橋JCT間の4車線化により、舟橋JCTを起点とする渋滞は解消されましたが、変わって4車線から2車線になる能瀬IC及び暫定の線形が原因により新たに交通渋滞が発生していました。



狩鹿野ICより金沢方面を望む

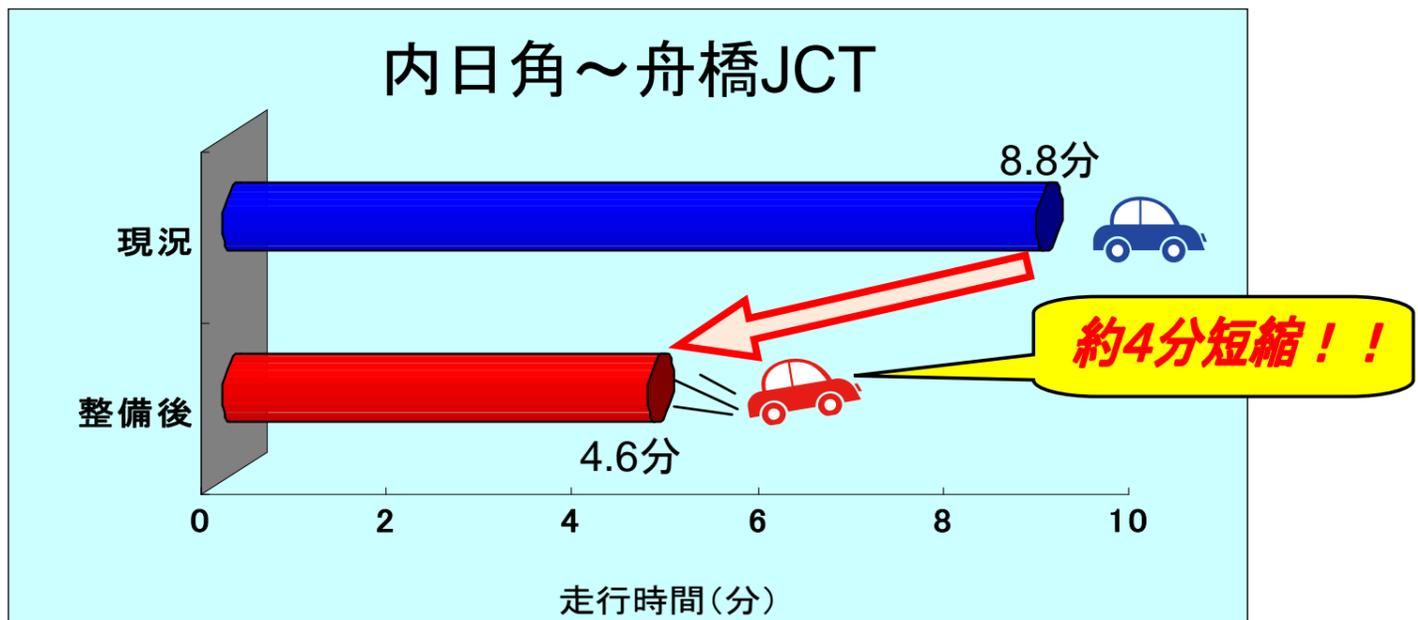
★今回の供用により、内日角～能瀬IC間で発生している交通渋滞の解消が期待されます。

● 走行時間短縮

能瀬IC～舟橋JCT間の4車線化により舟橋JCT周辺において、旅行速度が向上しましたが、新たに能瀬IC以北の暫定2車線区間で、4車線から2車線への車線減少や2車線区間の線形が原因で旅行速度の低下が発生していました。



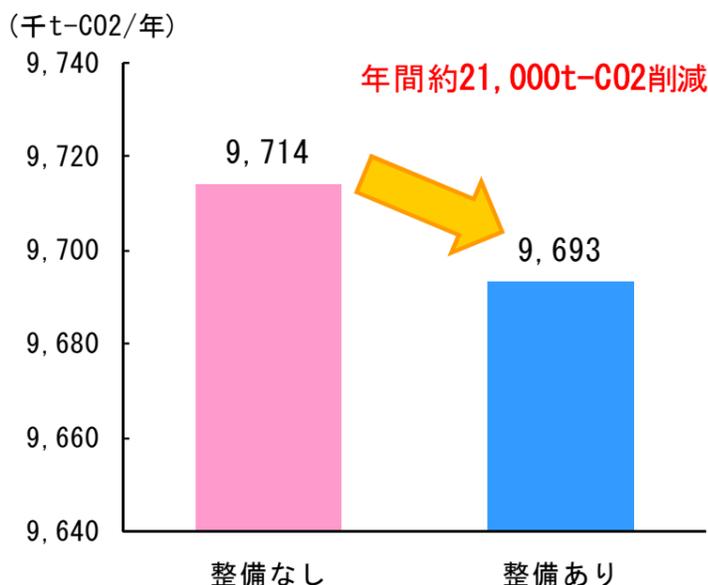
これまでに4車線化を行った区間では、一定の旅行速度が確保されており、今回の供用後も能瀬IC～舟橋JCT間の旅行速度が向上し、休日のピーク時では金沢方面へ向かう内日角～舟橋JCT間において**最大約4分の走行時間短縮**が見込まれています。



※現況の通過時間はH21.5.30の能瀬IC～舟橋JCT間、4車線化後の実測調査による(休日、ピーク時(16時台)の調査結果)

● CO2排出量の低減

旅行速度の向上により自動車の燃費も向上し、CO2(二酸化炭素)の排出量が削減され、地球温暖化防止にも貢献すると思われます。



※上記のCO2削減量は推計値です。

21,000t-CO2/年の削減  
↓  
ブナ林約4,560haの年間CO2吸収量に相当

【兼六園(11.4ha)】

約400個に相当



※ブナ林の年間CO2吸収量は4.6t-CO2/ha【日本林業協会資料】で算出。